



# 感染症週報



## 小笠原での流行状況

第9週（2月23日から3月1日まで）

**父島** インフルエンザの報告が**11例**ありました。  
 感染性胃腸炎、COVID-19の報告がありました。

**母島** インフルエンザの報告がありました。

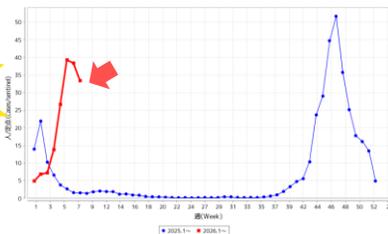
## 東京都全体での流行状況

第8週（2月17日～2月22日）

### 【警報・注意報】

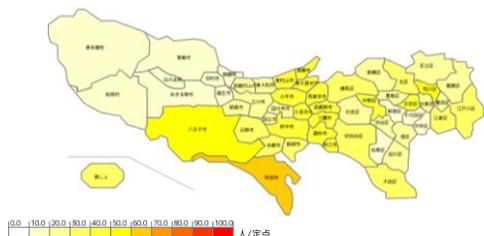
- ・インフルエンザ **注意報基準越え**  
 （定点患者報告数 33.41）

東京都内における定点当たり患者報告数の年別推移



村内でも  
流行中

都内の保健所別定点当たり患者報告数(第8週)



### 【ピックアップ】

- ・感染性胃腸炎 **村内でも出ています**  
 （定点患者報告数 10.99）

## なぜインフルエンザは何度も流行するの？

現在、インフルエンザは2度目の流行ピークです。昨年末にいったん落ち着いたのに、なぜまた増えているのでしょうか。

### 早期流行

通常より約2か月流行が早まったおかげで、冬の本番である1～2月には感染やワクチンで得た免疫が弱まってしまった可能性があります。

### 変異株サブクレードK

AH3の変異株であるサブクレードKには過去の免疫をすり抜けやすい性質があり、急速に感染拡大しました。年明けもB型と競合しつつ流行を支えています。

### 暖冬と寒波

今年は気温の乱高下が多く、自律神経が乱れやすい環境です。特に交感神経が過剰に働くとウイルスと戦うリンパ球が減少します。

### B型

昨シーズンはB型の流行がなかったため、免疫がアップデートされなかった人が多くいると考えられます。



### 降水量と湿度

2025年の都内降水量は過去10年で最少となり、今年1月も前年比3分の1と深刻な雨不足が続いています。相対湿度も過去10年で最低を記録した月が4か月あり、記録的な「超乾燥」状態となりました(※)。この乾燥環境が喉のバリア機能を弱め、ウイルスの生存や飛散を助け、再流行を後押ししています。

### 感染防止のためにすること

- ・乾燥を防ぐ(加湿やマスク着用)
- ・規則正しい睡眠と食生活
- ・手洗いや咳エチケットの徹底

## 感染症メモ

(※) 小笠原での降水量と湿度は過去に比べて低いということはありません。ですが、インフルエンザウイルスは本土から運ばれてきます。

2023年、WHOは新型コロナウイルスの緊急事態宣言を終了しました。この年のインフルエンザは夏の終わりにAH1亜型とAH3亜型が同時に流行し、年明け以降はB型が主流となるなど、複数の型が入り替わりながら流行を繰り返しました。背景には、コロナ禍での徹底した感染対策により社会全体の免疫が低下した「免疫の空白」があると考えられています。こうした状況を受け、「いっそ感染して免疫をつけた方が早いのでは」と思うかもしれませんが、しかし、インフルエンザは単なる風邪ではありません。特に高齢者や持病のある方にとっては命に関わる感染症であり、回復後も後遺症に悩まされることがあります。今、私たちにできることは「かかって治す」ことではなく、基本的な感染対策を徹底し「感染の連鎖を断つ」ことです。一人ひとりの感染対策が、周囲の重症化リスクを減らす社会的な防御につながります。手洗い・咳エチケット・加湿・換気といった基本を改めて実践し、感染拡大を防ぎましょう。

習慣にしよう!

感染予防の基本は手洗い



東京都島しょ保健所小笠原出張所

